

2022年度 人間福祉学部自己点検評価(案)

点検・評価項目は学部に関係する項目を抽出していますので、点検評価項目の数字は連番になりません。

基準1 理念・目的

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
①大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容	・学科会議並びに学科FDをとおして常に確認と点検を行った。	2021年度に引き続き、コースのありかたについて検討を行う。	8月26日第2回学部FD「人間福祉福祉学部の『これまで』『いま』『これから』を開催した。学部長作成の資料を基に小グループでのディスカッションを行い、その結果を共有した。今後の方向性を検討する礎となった。	学部FDにおいて定期的に確認を行う。	学則第1条に「本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、キリスト教を教育の基盤として広く知識を授けるとともに、深く専門の学術・技能を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界平和と人類の福祉に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。」とある。人間福祉学部は、その目的を踏まえ、「社会福祉における諸問題に対応できる理論と技術について教授、研究し、幅広い教養及び深い専門的知識を基盤に福祉社会に貢献し得る人材を養成することを目的とする」(学則第3条第1項)とあり、人類の福祉に貢献するとう大学の理念を踏まえた目的となっているといえる。
	○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性	・「子ども家庭支援ソーシャルワーク」について国の資格動向を検討した。 ・スクールソーシャルワーク認定資格について検討した。 ・公務員対策講座の充実について検討した。	・コロナ禍における宗教委員会主催行事等の円滑な実施に寄与する。	・卒業必修科目である「キリスト教概論Ⅰ」での学びをとおして、本学の建学の精神をすべての学生が学んでいる。 ・年度計画に基づく毎週2回行われる「チャペルアワー」や他の催しを学生への周知についてもできる範囲で実施した。		
②大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	・ディプロマポリシーに合わせて学年ごとの教育目標を設定した。 ・学年の到達目標に沿って基礎演習、専門演習(ゼミ)の教育内容を検討した。 ・ディプロマポリシーをオリエンテーションで取り上げ、学部での学修のゴールを確認させた。	①学部の魅力を発信する 学部の魅力をわかりやすく表現、大学の認知度を向上させるための広報を目指す。 ②高校をはじめステークホルダーに伝える 入学希望者増加への貢献を目指す。	○学部の特徴を入学希望者へ適切に伝えるための動画を作成し配信した。 ○オープンキャンパス用の展示を全てリニューアルし新たなパネルを作成した。学部の新たな魅力を広げ、高校生の興味・関心を高めることに尽力した。 ・オープンキャンパスを6回開催し学部の特色や魅力を発信する事ができた。 ・オープンキャンパスはコロナ感染拡大影響のため、5月と9月の2回が中止となった。また、3月以外は半日開催であった。下記に日程を記載。()内は模擬授業担当。 5月16日中止・6月14日(森田先生)6月13日(早川先生)・7月18日(宮嶋先生)7月11日(大藪先生)8月8日(加藤先生)9月5日中止・3月27日(福地先生) ・9月、学部の特徴を入学希望者へ適切に伝えるための動画を作成し配信した(水野先生)。 ・2月、高校生が「探求」のテーマを考える参考資料の一助となるよう「10年後のまちづくり」をテーマとし「マイナビ進学記事」のヒヤリングに答えた。この記事はWebにて紹介される。(水野先生) ・5月、学部紹介チラシ「なりたいたい自分」シリーズを一部最新の卒業生の情報をもとに改訂し、高校生に配布した。また、3月は、全てリニューアルするため、分担し卒業生に取材をしている。 ・大学ホームページに記事をアップし、学部の様子や魅力をわかりやすく広報している。 ・高校内ガイダンス(模擬授業および職業別体験授業)へ10回以上出張し高校生に学部の魅力を伝えていく。 ・高大連携事業として、3つの高校へ出張講義に行った。(総評価と反省) コロナ禍であったが可能な範囲で様々な工夫を重ね、学生募集につながる取組みを講じ、学部の魅力を発信する事が出来た。しかし、課外活動入学・留学生などの入学予定者減少のため2021年度入学108名から2022年度入学予定者71名(2022/2/18現在)と大幅に減少する予定となった。 今後も、コロナ禍の継続、少子化による入学予定者減少というリスクを踏まえ、入学希望者増加への貢献、学部のブランドイメージ構築、大学の認知度向上についてより一層の努力をしていく必要がある。	・学位名称の変更について、ホームページの更新が必要。 ・学位名称の変更に伴うディプロマポリシーの変更が必要。	○人間福祉学部ホームページ HOME > 大学 > 人間福祉学部 人間福祉学科 https://www.chubu-gu.ac.jp/university/wellbeing/index.html ○大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知一ゼミ前後期開始のオリエンテーション時に配布資料に理念・目的を明記し、周知の徹底を講じている。 ○授与する学位の統一化・社会福祉学→人間福祉学、学部と研究科の統一を図った。
	○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表	・オープンキャンパスや自己実現入試において受験者に伝えている。 ・6月4日に開催した保護者懇談会において、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて伝えた。 ・高校が行う進学説明会等に出かけて学科の教育方針、特色を説明した。 ・リーフレット「なりたいたい自分」シリーズの中で説明した。	具体的には、 ・「なりたいたい自分」シリーズのリーフレットを全改訂し完成させる。リーフレットを入学予定者又は保護者、各関係機関に配布し学部の魅力を広く紹介する。 ・2022年度オープンキャンパスは1日開催になる予定であるため、内容を吟味していく。各コース・プログラムのゼミ室ブース紹介を再開する。 ・ホームページ掲載、動画作成を行い、学部の周知を向上させる。 ・高校への進学ガイダンス、出張講義を継続			

基準2 内部質保証

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	○学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び学生の受け入れ方針の策定のための全学としての基本的な考え方の設定	・シラバスの点検を教務委員を中心に行い、ディプロマポリシーの位置付けを点検している。	全学の基本的な考え方を踏まえて、学部の方針を毛決定していく。	8月26日第2回学部FD「人間福祉福祉学部の『これまで』『いま』『これから』を開催した。学部長作成の資料を基に小グループでのディスカッションを行い、その結果を共有した。今後の方向性を検討する礎となった。	学部FDにおいて、PDCAサイクルを継続的に行う。	2020年度より、学部FDにおいて学部での取り組みについて集約し、内部質保証システム構築に向けた取り組みをはじめた。
	○方針及び手続に従った内部質保証活動の実施	・実習巡回を通じて福祉施設より卒業生の動静、大学教育に対する要望を伺った。	引き続き、自己点検・評価等委員会「作業部会」との有機的に連携し推進する。	10月14日の自己点検・評価等委員会「作業部会」において、学部の自己評価を報告した。		
	○全学内部質保証推進組織による学部・研究科その他の組織における教育のPDCAサイクルを機能させる取り組み	・実習巡回を通じて福祉施設より卒業生の動静、大学教育に対する要望を伺った。 ・学科会議で振り返り方針の共有を行っている。	2022年度も前期末、後期末に自己点検評価を実施する。	2021年度前期は、Teamsを用いた共同作業で学部自己点検を行った。		
	○学部・研究科その他の組織における点検・評価の定期的な実施	・後期に開始にあたり、学部FDを開催し2022年度前期の取り組み状況点検・評価する。	継続的に学部FDを開催し、点検・評価の結果を改善・向上に向けて取り組んでいく。	3月17日、学部FDを開催し、2021年度の取り組みを振り返り、2022年度につなげていく。		
	○学部・研究科その他の組織における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施	・学年主任を中心に学年の教育目標と評価、事業の実施計画策定が行われている。	「適切な根拠」となる資料の収集を行う。	定員確保に向けて、入試広報担当を中心に広報活動を行っている。		
	○行政機関、認証評価機関等からの指摘事項(設置計画履行状況等調査等)に対する適切な対応	・定員確保に努めている。	自己点検・評価等委員会「作業部会」で全学的な取り組みの下で、学部としての取り組みを行う。	自己点検・評価等委員会「作業部会」で報告を行うことにより、評価の客観性を確保している。		
○点検・評価における客観性、妥当性の確保	・学生の授業評価、保護者会での個別懇談等をおして学科に対する意見を伺っている。					
⑤内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○全学的なPDCAサイクル等の適切性、有効性の定期的な点検・評価 ○点検・評価における適切な根拠(資料、情報)の使用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	・学生生活調査、卒業生満足度調査等を通じて数値的な評価結果を得ている。		自己点検・評価等委員会「作業部会」で全学的な取り組みの下で、学部としての取り組みを行う。 オリエンテーション、保護者懇談会などで用いた資料は可能な限り収集している。後期、Teamsでの情報の集約を開始した。	2021年度前期末・後期末に点検し、改善する点を確認する。	2020年度の取り組み状況について、学部FDで集約した。

基準3 教育研究組織

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
① 大学の理念・目的に照らし、学部・研究科、附属研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	○大学の理念・目的と学部(学科又は課程)構成及び研究科(研究科又は専攻)構成との適合性	・「生きるを 学ぶ」は大学の目標、「生きるを 支える」は学部の目標である。	学部FDなどを通して、内容を検討していく。	8月26日第2回学部FD「人間福祉福祉学部の『これまで』『いま』『これから』を開催した。学部長作成の資料を基に小グループでのディスカッションを行い、その結果を共有した。今後の方向性を検討する礎となった。	社会的要請を捉えた学部の取り組みについて検討する。	社会から要請を受け、外国からの人材受け入れ要請に対して、留学生委員を中心に対応している。
	○大学の理念・目的と附属研究所、センター等の組織の適合性		図書館の有効活用を促進する。			
	○教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	入国の遅れた留学生については、Zoomでの授業の配信を行うなど最大限の対応するとともに、留学生用のクラスを設定し、学生の状況に応じた対応を行った。		8月26日第2回学部FD「人間福祉福祉学部の『これまで』『いま』『これから』を開催した。学部長作成の資料を基に小グループでのディスカッションを行い、その結果を共有した。今後の方向性を検討する礎となった。		
②教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく教育研究組織の構成の定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	・学部長をリーダーに学科教員が役割分担を行い、学科組織の活性化と調整を行っている。	「適切な根拠」となる資料の収集を行う。	前期末および後期末に学部FDを開催し、教育研修組織の点検・評価を行っている。評価結果を踏まえた改善の取り組みが課題である。		

基準4 教育課程・学習成果

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定(授与する学位ごと)及び公表	ディプロマポリシーをオリエンテーションで取り上げ、在学生に対して学修のゴールを確認させた。 6月4日に開催された保護者懇談会において、ディプロマポリシーについて説明をした。	ホームページ、履修要項に掲載するほか、保護者懇談会で説明を行う。	保護者に対しては、保護者懇談会において説明を行った。	リンクをたどって見ることができない。	○大学ホームページに掲載している。 HOME > 大学 > 人間福祉学部 人間福祉学科 > 3つのポリシー https://www.chubu-gu.ac.jp/university/wellbeing/policy/index.html ○大学案内に掲載している。

<p>② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。</p>	<p>○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定(授与する学位ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等</p> <p>○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性</p>	<p>・6月4日に開催された保護者懇談会において、カリキュラムポリシーについて説明をした。 ・新学期オリエンテーションで伝えている。 ・コースに沿った履修モデルを設けている。</p> <p>・開講科目の学年配当、時間割等について考慮している。</p>	<p>保護者に対しては、保護者懇談会において説明を行った。</p> <p>スポーツ健康科学部の他学科履修科目が減るため、履修指導が必要となる。</p>	<p>リンクをたどっていないか と閲覧することができない。</p> <p>○大学ホームページに掲載している。 HOME > 大学 > 人間福祉学部 人間福祉学科 > カリキュラム https://www.chubu-gu.ac.jp/university/wellbeing/curriculum/index.html ○大学案内に掲載している。</p>	
<p>③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <p>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定</p> <p>・初年次教育、高大接続への配慮 ・教養教育と専門教育の適切な配置 ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり</p> <p>○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	<p>・カリキュラムの内容、授業内容について講師懇談会を開催し点検を行っている。</p> <p>・社会福祉士養成カリキュラムの改正に合わせて、科目の学年配当の変更を進めている。 ・コースに沿った履修モデルを設けている。 ・福祉現場の職員をたびたび招へいて現場の様子を学生に伝え実践的な学びの場に行っている。 人間福祉基礎演習Ⅰにおいて、全クラスが共通の内容に取り組むよう、内容の検討を行った 多様な学生に対応できるよう、専門科目を増やす手続きを進めている。</p> <p>・専門職養成課程において、実習のほか、外部講師の招聘、現場見学などに必要な能力を学ぶ努めている。 ・1年生からキャリアガイダンスを行い、学生の適正に応じた進路指導を行った。</p>	<p>学部会議において、必要な議論を行う。</p> <p>科目関係図を活用するよう指導する。 学生への貸与PCを活用した授業方法について検討する。</p> <p>検討結果を踏まえ、教育実践を行い、振り返ることで、初年次教育の内容を検討する。</p> <p>社会福祉コース、精神保健福祉コース、介護支援コース及び公務員プログラムにおいて、必要な能力を育成できるよう取り組んでいく。</p>	<p>8月26日第2回学部FD「人間福祉福祉学部の『これまで』『いま』『これから』を開催した。学部長作成の資料を基に小グループでのディスカッションを行い、その結果を共有した。今後の方向性を検討する礎となった。</p> <p>履修要項において、コースごとの科目関係図が示されている。</p> <p>2021年度入学生から全員がPCを持つため、デジタルトランスフォーメーション(DX)を見据えた取り組みを検討する。</p> <p>2022年度入学生の基礎演習Ⅰのあり方について検討した。</p> <p>自己点検・評価等委員会「作業部会」において、全学としての取り組みとの関係を確認している。</p> <p>社会福祉コース、精神保健福祉コース、介護支援コース及び公務員プログラムにおいて、必要な能力を習得できるよう、教育をおこなった。</p>	<p>入学前オリエンテーション(仮)の実施を検討する必要がある。</p> <p>2021年度入学生から全員がPCを持つため、デジタルトランスフォーメーション(DX)を見据えた取り組みを検討する。</p> <p>大学におけるデータサイエンスのリテラシー教育が求められることへの対応を検討する。</p> <p>○7月2日の第1回学部FDIにおいて「人間福祉学部のカリキュラムについて」話し合い、カリキュラム改正へとつなげた。 ○2020年度社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの改正により、人間福祉学部カリキュラムの見直しを行った。この中で、科目名称に社会福祉学の状況に合わせた「ソーシャルワーク」を用いることとした。 ○2021カリキュラムに合わせた科目体系表を作成した。 ○2021カリキュラムにおいて、「社会福祉概論」が3年次配当の「社会福祉原論」となったため、「人間福祉入門」を必修科目とした。 ○基礎教養系科目と専門教育系科目の再配置を行った。 ○専門職養成において、権力、現場での実習を行うよう調整を行った。 ○学内実習に不足した場合でも、Zoomを用い、現場の方とのやり取りができるよう取り組んだ。 ○コロナ禍においても2名の学生が企業インターンシップを実施した。</p>
<p>④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	<p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <p>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)</p> <p>・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)</p> <p>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</p>	<p>○TeamsやZOOMなど、ICTを活用した授業に全教員が取り組めるようICT研修を行った。授業において積極的な活用を促した。</p> <p>○精神保健福祉コースの取り組み状況 ・前期の終盤、実習指導者を招いて対面形式での実習教育研修会を行った。第1部では学生5～6名の中に実習指導者2名が入っていたが、学生たちとの意見交換を行い、相互理解を図ることができた。</p> <p>○(介護支援コース)7月6日に実習施設の実習指導者とオンラインによる実習調整連絡会議を実施した。コロナ感染流行下における実習指導の課題や指導方法について、情報共有と意見交換を図った</p> <p>・予習・復習ができるよう、42単位を上限として履修指導を行った。</p> <p>・年度当初に、シラバスチェックを行い、大学共通の要件を満たすよう、依頼をした。</p> <p>○精神保健福祉コース ・授業の連絡および学生とのやり取りはTeamsの活用で統一した。</p>	<p>○「人間福祉専門演習Ⅰ」の5つのゼミと「地域福祉論」受講学生合同でゲスト講師を招いた特別授業を行い、講師とのディスカッションを通して学生自身が自分の現在と将来について考える機会とした。(渡辺)</p> <p>○社会福祉コースにおいては、以下のとおり ・2021年11月12日実習担当者会議を開催し、学部の教育方針を伝えるとともに実習方針について伝え、意見を伺った。 ・2021年12月25日、社会福祉実習報告会を開催し、実習を行った学生が自らの学びを深めるとともに、次年度実習に行く学生が報告を聞くことで、実習に関する準備をすることにつながった。</p> <p>○精神保健福祉コースの取り組み状況は以下のとおりである。 ・竹村先生の「各論」と渡辺先生の「精神リハ学」で、実践的なSSTを学ぶことができたことは大きな成果。 ・新型コロナウイルスの影響で病院見学を実施することはできなかったが、施設での1日見学実習を「クラブハウスゆうせん」「地域活動支援センターふらっと」「就労支援センターやろまいか」で計画通り実施できた。実習等を通しての良い関係性が活かされたと考えている。 ・新型コロナウイルスの影響で実習教育研修会がリモート形式となったが、2年ぶりに実習指導者の方々との情報交換や意見交換を行うことができたことは貴重な時間となった。 ・2021年度後期、実習指導の授業内で、実習指導者5名を招いての特別授業を行った。実習指導者から実習に関する説明を受け、その後、学生と実習指導者のグループワークを行うことができ、学生たちの実習へ向けての意識向上につながった。 ・加藤が担当する科目「演習、実習指導、精神保健福祉論」でゲストを招いた特別講義を実施したが、やや場当たり的に動いてしまった。新型コロナウイルスの影響もあったが、もう少し具体的にスケジューリングを行う必要がある。 「精神リハ学B(後期科目、渡辺先生担当)」で精神科病院勤務の精神保健福祉士をゲスト講師として招いた特別授業を行った。特別授業当日に備え、事例を用いたグループワーク等を行い、ゲスト講義の理解をより深められるよう工夫した。一方で、新型コロナウイルスの影響で授業の進め方には制約があった。</p> <p>○介護支援コースでは下記の取り組み状況は以下のとおりである。 ・コロナ禍の影響で、従来行っていた施設指導者や地域の方の授業参加が実施できなかった。 ・コース在籍学生については各学年の担当を決め、お互い情報共有しながら履修や学生生活の支援を行ってきた。今年度は10か月入国できなかった中国人留学生の変則的履修指導も加わったが、コース教員と留学生センター、教務課と連携を助けて支援できた。 ・8月、9月、2月の実習についてはできるだけ現場実習が行えるよう感染動向を見極めながら時期をずらしたり、契約施設を増やすなど対応に努めた。その結果実習を実施することができたが、事務作業が膨大に増え忙殺された1年であった。</p> <p>○キャリア形成論Ⅱにおいて、5名の学生がインターンシップを行い、2022年1月14日、インターンシップ報告会を実施した。</p> <p>引き続き1年間42単位の履修を原則として、必要な科目を履修するよう指導する。</p> <p>シラバスの内容について、引き続き検討を行う。</p> <p>IR委員会よりシラバス作成についての具体的な指示が示された。</p> <p>○精神コースにおいて、マイクロソフトの「チームス」を活用し、授業連絡や課題提出をさせるなど、教員と学生の双方向のやり取りを意識して取り組んだ。(加藤) ○介護支援コースの演習授業では、「Teams」を授業中に用いて、グループごとに資料をまとめ、さらにクラス内での発表資料に用いるなどICTを活用した授業方法の試行に取り組んだ。 ○介護支援コースでは、全学年参加のケーススタディ発表会や3年生の学生で地域貢献事業を実施することができた。 ○2021年度の前期は対面授業と遠隔授業の交互であった。人間福祉専門演習Ⅰを通して少しでも視野を広げるために、前期は福祉分野で活躍していたり、障害等を有しているが自分らしく生きている6名のゲストスピーカーを招いての特別授業(Zoomも活用)を実施した。(加藤) ○精神障害者等が利用する施設の雰囲気を感じ取るために、精神コース3年生を対象に、1日見学実習を行った。 ○介護支援コースは新型コロナウイルスの影響により、実習以外で地域住民との交流を図る機会を持つことができなかった。</p>	<p>通信環境を踏まえた授業の実施が必要である。 Zoom等の利用について、学部としての方針を決める必要があるかどうかを検討する必要がある。</p> <p>1年間で42単位を原則として、履修が行われている。</p>	<p>○2020年3月28日、講師懇談会を開始し、非常勤講師の方へコロナ禍での人間福祉学部の教育方針を伝えた。ポータルを通じた遠隔授業の支援を教務委員が必要に応じて行った。 ○2020年度前期は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ポータルでの課題提示が中心となり、6月中旬より「特別授業」として一部の授業のみ対面で実施することとなった。この際、可能な限り対面の授業を実施できるよう、柔軟に時間割を組んだ。 後期は、大学の方針に従い、半分の授業を遠隔授業として行った。 ○人間福祉学部は単位取得上限数を42単位とし、予習・復習の時間を確保できるよう設定している。 ○7月2日に第1回学部FDIにおいて「特別授業の状況とICT活用」をテーマに話し合い、コロナ禍における授業の方法を共有した。 ○後期開始にあたり、オリエンテーションを実施し、遠隔授業の履修について注意を促した。 ○基礎演習・専門演習においては、学生数を12～15人となるよう、教員が配置されている。 ○学生に主体的な参加を促すため、新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、可能な範囲でグループワークやディスカッションを授業内に取り入れた。 ○ZOOMを利用したリモート形式でのゲスト講義を実施し、コロナ禍であっても学生が現場で働く専門職者の話を聞くことができる機会を設けた。 ○基礎演習のクラスで「チームス」を活用した。チームス内で学生と教材の共有をしたり、チャット機能を用いて学生と教員での連絡手段とした。また、課題の提出方法にチームスでの提出を可としたことで、学生ごとにPC環境が異なるなか柔軟に対応することができた。 ○実習報告会(社会福祉士、精神保健福祉士、SSW)を実施した。 ○新型コロナウイルスの学生との正課外活動を支援するため、E-mailやLineなどSNSを活用した。 ○正課外教育では、コロナ禍であったが、精神保健福祉コース3年生が、2020年10月16日と10月30日に地域活動支援センターおよび生活訓練事業所で見学実習を行った。 ○授業の中で、「おすすめの一冊」を呼びかけた。 ○前期、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰにおいて、毎回短時間でもZoomを用いて、顔が見えるようにした。 ○講義科目で、伝えたい点に絞ってZoomを用いた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 適切な履修指導の実施 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初のオリエンテーションにおいて、時間割作成について指導を行っている。特に1年生には、1コマ確保し、時間割の作成、履修登録までの指導を行った。 演習科目においては、1クラス15名程度で編成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生のコース所属について、明確にする。。特に社会福祉コースについては、資格取得希望者を明確にする。コースごとの学生名簿を整備する。 春のオリエンテーションにおいて、取得希望の資格に応じて必要な科目を履修するよう指導する。全体オリエンテーションのあと、個別の履修相談を実施し、疑問点を解決する。随時、資格取得コースの担当教員、クラス・ゼミ教員が相談に応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前期開始時や前期試験結果の発表後、ゼミ生の希望進路の確認や取得単位数をポータルサイトを確認し、必要に応じて学生に個別指導を行っている。 ○履修状況に課題のある学生について、学科会議や学年単位の会議で情報共有している 新型コロナウイルス感染症の対策が可能な教室を確保している。 		
<ul style="list-style-type: none"> ⑤成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 単位制度の趣旨に基づく単位認定 既修得単位等の適切な認定 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 卒業・修了要件の明示 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生のオリエンテーションにおいて、単位制の意味を説明し、1回の授業で、講義は4時間、演習は2時間の予習・復習を行う必要があることを伝えた。 1年生については、進級要件、卒業要件を説明した。在学生については、オリエンテーションにおいて、2年生には進級要件・卒業要件、3・4年生には卒業要件を示し、取得単位数を確認したうえで、履修を行うよう促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部において、単位認定、学位授与の方針について、継続的に検討し、必要に応じて、学生、保護者に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価等委員会「作業部会」において報告し、全学での動きを反映させている。 保護者懇談会でも説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価の客観性、厳格性を担保する方策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 履修要綱において、卒業要件を進級要件とともに明示している。 教育情報の公開を、オープン教育リサーチやWeb研究室を活用して、行った。
<ul style="list-style-type: none"> ⑥学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり ○学位授与を適切に行うための措置 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 学位授与に係る責任体制及び手続の明示 適切な学位授与 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定(特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。) ○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発 〈学習成果の測定方法例〉 アセスメント・テスト ルーブリックを活用した測定 学習成果の測定を目的とした学生調査 卒業生・就職先への意見聴取 ○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 「各コース及び委員会委員の2022年度目標と事業実施計画」において、2022年度の年度社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成課程の取り組みを計画している。 学習成果についてどのように「見える化」していくか引き続き検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「各コース及び委員会委員の2022年度目標と事業実施計画」において、2021年度社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成課程の取り組みをふりかえった。 1年生、3年生に実施されているPROGの結果と教員からの評価との関係を分析し、7月学部会議において提示をした。教員からの評価がよいが、PROGの評価が低い学生がいることから明らかとなった。PROGの結果をどのように捉えるかが課題であることがあきらかとなった。 IR委員会、教務委員会合同のアセスメントテストに関する検討が行われている。他学科においてもPROGの評価結果をどのように生かすかが課題として挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発に向けた取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2020年10月29日、4年生が卒業研究発表会を開催した。資料:卒業研究発表会のBD
<ul style="list-style-type: none"> ⑦教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上 	<ul style="list-style-type: none"> 大学全体の取り組みとして、1年生、3年生に対してPROGテストを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自己点検・評価等委員会「作業部会」との有機的なつながりを続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> Teamsにおいて、コース・プログラムでの取り組み状況の資料を収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目で取り上げる内容を相互に確認する必要があるかどうか検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度は、社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムの変更に伴い、人間福祉学部のカリキュラムの見直しを行った。教育内容については、学間として各教員が自由に展開することを保障するため、シラバス内容は担当教員にまかせている。

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 入学希望者に求める水準等の判定方法 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域貢献入試」をリニューアルして、「地域貢献特別入試」として、総合探求やボランティア活動等で地域の課題に取り組み、「地域創生」に貢献した人を入試で評価する。 「介護福祉士」の資格を取得(見込みを含む)し、さらに社会福祉士の資格を目指し連続して学ぶ人を支援するための奨学金制度を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部会議において検討を行い、オープンキャンパスにおいて説明を行う。 引き続き、学生募集方法・入試制度の検討を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーは大学HPや受験ガイドにて公表している。またオープンキャンパスにおいて学部のカリキュラムの特徴を高校生と保護者に説明した。 ・8月学部会議においての3つのポリシーについて、見直しの必要があるかどうかを確認し、継続することとなった。 ・10月の学科会議にて、2020年の新入試制度に合わせ見直しした総合型選抜および学校推薦型選抜の面接評価票の確認を行いアドミッションポリシーと評価項目の対応を再確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、大学HP、受験ガイド、オープンキャンパスで伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> (入試広報委員会) アドミッションポリシーは大学HPや受験ガイドにて公表している。また7月、8月、9月、10月、11月実施のオープンキャンパスにおいて学部のカリキュラムの特徴を高校生と保護者に説明してきた。 ・大学ホームページ HOME > 大学 > 人間福祉学部 人間福祉学科 > 3つのポリシー https://www.chubu-gu.ac.jp/university/wellbeing/policy/index.html
<ul style="list-style-type: none"> ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス学部説明会会場において、奨学金に関する情報提供を行った。 高校で開催される進路説明会に於いて福祉の仕事等について説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学生募集方法・入試制度の検討を続ける。 支援制度の情報が学生に届くよう、情報提供の方法を複数にするなど対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> (入試広報委員会) ○学部紹介テラシ「なりたい自分」シリーズを最新の学生・卒業生の情報をもとに改訂し、高校生に配布した。 ○11月の学部会議において、「自己実現入試」「スポーツ活動評価」の面接評価の配点変更を承認した。 ○11月の学科会議にて、自己実現入試、スポーツ活動評価入試、課外活動特別入試、指定校推薦入試などの面接評価配点を面接官1名に対し50点を40点に変更することが検討され承認された。(各入試配点にそって入試広報紙が変換している作業工程の煩雑さの解消のため)11月の学科会議にて、総合選抜型および学校推薦型選抜の合格者に対する入学前課題について検討した。従来の方針(新聞記事をつづき、要約と考察を書く)を継続することを決定した。 ○1月の学科会議で2022年度の入試区分の変更について検討した。高校の総合探求の学びを評価した「地域貢献評価入試」を総合型選抜に取り入れる。これは高大接続の位置づけとなる。 ポータルでの連絡に加えてクラス・ゼミをとおして、「学生等の学びの継続を支援するための緊急給付金」などの連絡をすることで、周知を行っている。 ・12〜2月の学科会議で、今年度の受験及び合格状況を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部会議において、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> (入試広報委員会) 6月の学科会議にて、入試制度の変更に合わせて総合型選抜および学校推薦型選抜の面接評価票の見直しを行った。アドミッションポリシーと評価項目の対応を明確にした。 2021年1月の学科会議で来年度の自己実現入試の選抜方法について検討し、今年度と同様の方法で行うことを確認した。 2021年2月の学科会議で来年度の自己実現入試以外の選抜方法について検討、確認する予定 (入試広報委員会)

	○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施		障がいのある学生に対し、必要な支援を確認したうえで、入学試験を実施する。			10月22日の学科会議にて、総合選抜型および学校推薦型選抜の合格者に対する入学前課題について検討した。従来の方法(新聞記事を2つ選び、要約と考察を書く)を継続することを決定した。 ○学部の特徴を進学希望者に適切に伝えるためのパンフレットを作成し、配布した。(宮嶋先生)
③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学率比率 ・編入定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応		学部会議において、検討を続ける。	学部長の指示のもと、11月18日から26日の間に、各コース、プログラムにおいて「定員を充足するための検討」が行われた。引き続き定員充足のための検討を行うものとした。	学部会議において、確認する。	○入学定員に対する入学率比率は上昇し、2020年5月現在0.93である。 ○編入定員に対する編入学生数比率が低い状況が続いている(2020年5月現在 0.07)。 (入試広報委員会) 12月の学科会議で、今年度の受験および合格状況を報告した。
④学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上		「適切な根拠」となる資料の収集を行う。			

基準6 教員・教員組織

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	次年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
④ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	前期末・後期末に学部FDを開催し、各コース・委員会の取り組みを共有している。 年度はじめの教員ごとの取り組み状況を学部長に報告をし、大学全体として集約されている。	引き続き、FD活動を行い、その結果を蓄積し、活用を検討する。	5月20日第1回学部FD: 遠隔授業における「Teams」の活用方法を実施。 8月26日第2回学部FD:「人間福祉学部の『これまで』『いま』『これから』」を開催 3月17日第3回学部FDを開催予定 Teamsによる情報共有を踏まえて、結果が蓄積されはじめた。	年2回の学部FDを継続的に行う。	2019年度の教員自己評価シートを作成し、学部長に提出をしている。 ○7月2日に第1回学部FDを実施した。「テーマ1:特別授業の状況とICT活用」、「テーマ2:人間福祉学部のカリキュラムについて」を話し合った。テーマ1については、コロナ禍での授業方法を共有することができた。テーマ2については、出された意見を学部長に渡し、カリキュラム改善へとつなげた。
⑤教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	Teamを用いて、点検・評価の根拠となる資料の収集を行った。	「適切な根拠」となる資料の収集を行う。			

基準7 学生支援

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	2022年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
②学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	○学生支援体制の適切な整備 ○学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者及び休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 ・奨学金その他の経済的支援の整備 ・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○学生の生活に関する適切な支援の実施 ・学生の相談に応じる体制の整備	(介護支援コース)国試受験にあたって成績不良者への補習教育を6月から実施。 入国が遅れる学生について、入学前の3月より課題を出し、4月以降の授業にスムーズに入ることができるように支援した。 入国までの間、対面授業・遠隔授業を組み合わせたハイフレックス授業を実施するなど、授業の遅れが生じないよう取り組んだ。 入国の遅れた学生に対して、5月20日に学部オリエンテーションを実施し、進級・卒業要件、PCの設定を行った。 入学前から学生支援室と連携して面談を行い、ニーズを把握し、入学後の学習に支障がないように支援した。 学生支援室、ゼミ教員、特別支援委員が連携し、学生の合理的配慮希望に対して合意を取り交わし、支援実施につなげた 成績不振の学生についての情報を学部で共有し、個々の学生への支援を行っている。 新学期のオリエンテーションにおいて、留年者・休学者が復帰しやすいに関わった。状況把握が課題である。 基礎演習、専門演習の担当教員が学生の状況を把握し、支援を行っている。 事務局よりオリエンテーションにおいて、奨学金の紹介が行われた。 オリエンテーションにおいて、全学年の学生に案内を行った。 6月4日に開催された保護者懇談会において、経済的支援についての紹介を行った。		学生支援室・保健室との情報交換により、個々の学生の支援を実施してきた。 COC+事業から引き継がれた5大学共同事業「サマースクール」への参加を促している。 ・人間福祉学部会議において、支援が必要な学生について情報共有をしている。 ・年度初めの留学生向けオリエンテーション等は学年ごとにも実施した。また、後期に向けての指導(生活、単位等)についても指導の機会を設けた。 ・今年度は自転車の事故が2件あり、アルバイト先の支援があり治療・療養ができた。自転車保険の加入は、オリエンテーション時に説明し加入を促しているが、事故防止のための交通安全研修は留学生向けに必要であると考えた。 ・日本語能力の向上については、留学生支援課から夏季休暇と春季休暇中にJLPTに向けて集中講座行われたが、出席者が少なかった。また、4年生時のN1取得者は少なく、今後も試験受験を促し、啓発する必要があると考えた。 ・今年度は例年開催される留学生の研修日帰りツアーができず、日本文化に触れあう機会が少なかった。12月に正月飾り作りを行ったり、リープラザでの日本人との交流企画が開催されたが、人間福祉学部の参加者は少なかった。来年度は、人間福祉学部内の留学生の交流や日本人との交流の機会を設けたい。 ・未入国の学生(入学延期)への支援ができなかった。 人間福祉学部会議において、支援が必要な学生について情報共有をしている。 個別の支援について、アセスメントを実施し、保健室、学生支援室と連携し支援内容を検討している。 前期末の試験結果を踏まえて、再試験受験に向けて個別指導を行った。 年度のはじめには留年・進級不可者、休学者の状況について学部内で情報共有している。 休学・退学の状況については、該当する学生が出た場合に、人間福祉学部会議において共有している。 クラス・ゼミ担当教員による個別の状況把握と対応が行われている。学部会議において、支援が必要な学生について情報共有をしている。 新年度オリエンテーションにおいて、奨学金等の案内を行った。 保護者懇談会において、奨学金の説明を行った。ポータルだけでなく、クラス・ゼミの担当教員を通して、情報提供が行える体制が整っている。	国際交流プログラムへの参加の促進が必要である。 引き続き、学部会議においての情報交換を行う。	＜留学生委員会＞ ①今年度入学の留学生について16名中9名が新型コロナウイルスで来日が12月となった。在日している7名については、留学生用オリエンテーションを留学生支援課と留学生委員で行った(在留留学生による通訳等のボランティアもあつた)。入国できなかった9名については、履修科目を検討し、ZOOM授業で対応できる前期は4科目(6単位)についてのZOOM授業を(15回)実施した。また、この9名のみをゼミを新たに設け、生活、学習面の支援を行った。後期については、大学での授業体制に合わせ、ポータルサイトを活用した授業、在学生と一緒にZOOMで受ける授業などを実施した。9名は12月25日に来日することができ、1月12日より大学への投稿が始まった。その間の待機期間における生活指導は留学生支援課で行い、学習面での確認や受講については留学生委員で行った。登校開始後オリエンテーションを実施(教務課、留学生支援課、学部、図書館利用、ポータルサイト確認)を行った。 ②課題のある留学生について学業不振学生については、面談を行い、履修や再試験の状況を確認し指導を行った。また、法人(2団体)の支援を受けている学生については、法人との連絡会を実施、成績や大学の状況、アルバイト先の状況などの情報共有を行った。 ③留学生の就職支援新型コロナウイルスの影響で、就職先が決まらない学生が多く、キャリア支援課と連絡を取りながら、9月に就職が決まらない学生と面談をして、今後についての方向性を確認した。今年度は帰国する学生が例年よりも多い結果となった。 ④新型コロナウイルス感染の留学生について在留留学生が新型コロナウイルスに感染したため、留学生支援課とともに情報収集を行ない、大学保健室、対策本部への報告を行った。感染当事者や他の留学生との接触の機会が多く、留学生間の情報伝達が思っていたよりも早く、不安に感じた学生も多く、対応にあつた。また、ゼミ教員(留学生委員)が授業の出席などの指導を行った。 ＜ハラスメント委員＞ ハラスメント委員会への出席をし、ハラスメント啓発ポスターやチェックリスト等を確認した。学生からの直接の相談はなかった。 ○単位数不足により進級要件に関わる学生について学生及びその保護者に対し情報提供、状況把握、個別対応を行った。 ○特別支援委員会より、支援が必要な学生についての情報を学部会議で共有した。

<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント(アカデミック、セクシュアル、モラル等)防止のための体制の整備 ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮 ○学生の進路に関する適切な支援の実施 ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制(キャリアセンターの設置等)の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ○学生の正課外活動(部活動等)を充実させるための支援の実施 ○その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施 	<p>学生相談員が配置され、相談を受けるとともにひとつような措置が取られている。</p> <p>学部内で学生の状況を共有し、同じ対応ができるよう取り組んでいる。</p> <p>キャリア形成論Ⅰ、Ⅱを開講し、1、2年次から就職とキャリア形成を意識するよう促している。</p> <p>キャリア支援センターに学科担当職員が配置され、個別支援の体制が整っている。</p> <p>就職ガイダンス 1年生11月9日(水)3限 2年生10月13日(木)1限 3年生6月9日(木)・10月6日(木)3限 4年生4月14日(木)2限</p>	<p>キャリア形成論Ⅰ・Ⅱの授業において、キャリア教育を実施する。</p> <p>キャリア支援センターガイダンスを引き続き実施する。</p>	<p>キャリア形成論Ⅱにおいて自己理解、「ガクチカ」について伝え、インターンシップ実施に向け必要な知識・技術を確認している。</p> <p>キャリアオリエンテーションを実施。 1年生11月10日(水) 2年生10月14日(木) 3年生6月10日(木)、10月7日(木) 4年生4月15日(木)</p> <p>学科担当の職員2名が配置され、全学年を対象として支援が行われている。</p> <p>保護者懇談会において、保護者向けに進路選択に関する情報提供を行った。</p> <p>「公認欠席」のあり方について、11月の学部会議において改善を求める意見があった。これを踏まえて、2022年度より全学として欠席届の扱いが変更されることとなった。</p> <p>学生相談室、学生支援室が活用されている。</p>	<p>○視覚障害の学生受け入れに向けて、学生とともに盲学校を訪問し、先方の教員と連携をした。</p> <p>○障がいのある学生に対する修学支援では、弱視(ロービジョン)を有する学生への対応として、マイクロソフトのTeams(チームス)を活用し、対象学生と教員との間で共有フォルダを設定し、授業で使用するパワーポイントを授業数日前からそのフォルダに入れ込み、学生が事前に目を通しておけるようにした。</p> <p>○成績不振の学生の状況把握と指導では、(特に基礎ゼミⅠの場合)、特別授業の中で出されている課題の提出状況を対面授業の中で確認するようにした。課題の提出が遅れていた1名の学生に対しては、関係者間での情報共有が重要と判断し、学生支援室を軸にカンファレンスを行った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染関連による修学相談を行った。</p> <p>○給付型奨学金の活用を促し、修学支援を行った。</p> <p>○就職活動について、未内定者への声掛けを専門演習Ⅱ担当教員に依頼した。</p> <p>○オンラインの面接指導など、就職指導を行った。</p>	
<p>③学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示</p>		<p>学部の目的との関連性について検討をする。</p>		

基準8 教育研究等環境

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	2022年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
<p>④教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。</p>	<p>○研究活動を促進させるための条件の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学としての研究に対する基本的な考えの明示 ・研究費の適切な支給 ・外部資金獲得のための支援 ・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念期間の保障等 ・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)等の教育研究活動を支援する体制 	<p>科学研究費への申請及び研究活動を継続する。</p>	<p>科学的に週5日の勤務日のうち、1日は研究日として時間割作成時に配慮されている。</p> <p>初年次教育において、上級学年の学生をアドバイザーとして配置できないか検討している。</p>	<p>大学全体の取り組みへの参加を行う。</p>	<p>大学全体の取り組みへの参加を行う。</p>	<p>総合研究センターが作成した「2020年度科学研究費学内説明会」の動画を視聴した。</p>
<p>⑤研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。</p>	<p>○研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規程の整備 ・教員及び学生における研究倫理確立のための機会等の提供(コンプライアンス教育及び研究倫理教育の定期的な実施等) ・研究倫理に関する学内審査機関の整備 	<p>引き続き、研究におけるコンプライアンス、研究倫理を順守するよう取り組む。</p>				<p>大学全体で実施されている倫理研修(日本学術振興会が行う研究倫理eラーニングコース[eL CoRE])を2年に1度受講することになっており、すべての教員が受講している。また、2020年度は総合研究センターが作成した「研究倫理教育研修会」の動画を視聴した。</p>

基準9 社会連携・社会貢献

点検・評価項目	評価の視点	2022年度の取り組み	2022年度のに向けた課題	2021年度の取り組み	次年度に向けた改善点	2020年度振り返り
<p>①社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>○学外組織との適切な連携体制</p> <p>○社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進</p> <p>○地域交流、国際交流事業への参加</p>	<p>・教科「現代福祉マネジメント」を公開授業にして市民や福祉関係者の聴講を案内した。</p> <p>・「障がい者のための意思決定支援」について考えるセミナーを開催し、障害児教育、障害者福祉に携わる皆さんに研修の機会を設けた。</p> <p>・若者の自給について考えるワーキングショップを岐阜県と共同で2回開催した。</p> <p>・大学が立地する「福ヶ丘エリア」に集積する障害児教育、障害者施設の連携を図って、学生生徒育て、特別支援教育、障害者支援についての研究に取り組んだ。</p> <p>・JICA車の根技術協力事業に参加した。</p> <p>・岐阜各務野高校で福祉科3年生を対象に、介護福祉士国家試験対策講座を実施しました。</p> <p>・高校生に福祉への関心を高めてもらうことを目的に「心に残った出会い」というテーマの体験記・エッセイを公募した。結果、63件の応募があった。その中から受賞作を選定し、HPIにて公表した。</p> <p>・済美高校と人間福祉学部の高大連携授業を実施。(2022年10月14日)普通科1年生4クラス(約130名)を対象に、各クラス1名の教員が各自の専門分野についての授業を行いました。</p>	<p>地域連携推進センターと有機的な連携を行い、地域のニーズに応じた取り組みを行う。</p>	<p>○岐阜県福祉科教員研修会を岐阜県高等学校教育研究会家庭・福祉部会と共催(2021年8月6日)</p> <p>○済美高校と人間福祉学部の高大連携授業を実施。(2021年10月14日)普通科1年生5クラス(約150名)を対象に、各クラス1名の教員が各自の専門分野についての授業を行いました。</p> <p>地域福祉: 飯尾良英 教授 社会学: 福地潮人 准教授 精神保健福祉: 加藤大輔 准教授 介護福祉: 森田直子 准教授 障がい者福祉: 兼松博之 講師</p> <p>○関有知高校と人間福祉学部の高大連携授業を実施。(2021年10月29日)生活デザイン科1年生35名を対象に、人間福祉学部の大数元康教授が「福祉の仕事に従事する心構えと福祉の仕事の種類」についての授業を行いました。</p> <p>○郡上市職員特別研修の講師派遣(2021年11月16日)本学と郡上市との地域連携協定書に基づいた講師派遣。郡上市職員(約300名)を対象に、加藤大輔(准教授)が「精神疾患や精神障がいの理解へ向けて～自分を守り、大切な人を守るために～」というテーマで講演を行いました。</p> <p>○岐阜各務野高校での介護福祉士国家試験対策講座(2021年12月20日)岐阜各務野高校福祉科3年生ケアワーカーフィールドの生徒を対象に、介護福祉士国家試験対策講座を実施しました。</p> <p>○高校生に福祉への関心を高めてもらうことを目的に「心に残ったありがとう」というテーマの体験記・エッセイを公募した。結果、岐阜、愛知、大阪から合わせて145件の応募があった。その中から受賞作を選定し、HPIにて公表した。</p>	<p>地域連携推進センター、高大連携部会の動きに合わせて、人間福祉学部の専門性を社会に還元するための方針を定める。</p>	<p>○高大連携については、高校生の進路意識の高揚と専門分野への興味・関心を深めることや地域社会への貢献を目指して幅広い連携を行っている。相互の交流を通じ、高校・大学教育内容等への理解を深め、互いの教育の更なる活性化を目指している。本年度は教員による授業の提供を4回実施した。(各務野高校10月、12月、済美高校11月、関有知高校12月)</p> <p>○高校生を対象に、「認知症との出会い」をテーマにした体験記やエッセイを公募した。</p> <p>今回の体験記・エッセイの募集は今年度初めての試みであった。日本は超高齢社会を迎え、認知症を発症する高齢者が増えている中で、身近である家族や地域の方が認知症となり、接する機会も増えている。今回のねらいは、高校生から寄せられた「生の声」を通して、認知症についてより理解を深める契機とすることである。結果、74編(岐阜県内をはじめ、東京、福岡など全国から応募あり)の応募があった。内容について本学ホームページで紹介し周知している。</p> <p>○岐阜県福祉科教員研修会(オンライン)にて2021年3月22日開催予定)県内の高校福祉科教員が大学機関等からの研修及び情報交換をとおして福祉科教員の資質向上に努める。参加校:各務野高校、大垣桜高校、坂下高校、県内特別支援学校など</p>